



ANALYSIS OF TRADE PERFORMANCE, TRADE COSTS AND IMPACTS OF FDI AND TRADE FACILITATION ON MANUFACTURING TRADE OF THAILAND

Piya WONGPIT

(Degree)

博士（経済学）

(Date of Degree)

2014-03-25

(Date of Publication)

2015-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第6020号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1006020>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



学位請求論文審査結果報告要旨

論文内容の要旨

博士学位論文

論文内容の要旨および審査結果の要旨

氏名 Piya WONGPIT

学位の種類 博士（経済学）

学位授与の条件 神戸大学学位規程第5条第1項該当

学位論文の題目 ANALYSIS OF TRADE PERFORMANCE, TRADE COSTS AND IMPACTS OF FDI AND TRADE FACILITATION ON MANUFACTURING TRADE OF THAILAND
(タイの工業製品貿易に対する FDI（外国直接投資）と貿易円滑化の影響および貿易実績と貿易コストに関する分析)

審査委員 主査 教授 松 永 宣 明
教授 太 田 博 史
教授 駿 河 輝 和

本論文は7章から成る。第I章では研究の背景、目的、範囲、意義などが述べられ、第II章では先行研究の検討がなされ、第III章では以下の分析で用いられる方法とデータについて説明されている。第IV章ではタイの工業製品貿易の実績、比較優位パターンの変化、それと資本と労働の集約性との関係について、第V章では外国直接投資（FDI）によるタイの工業製品貿易への影響について、第VI章では貿易コストおよびタイの工業製品輸出に対する貿易円滑化などの効果について分析されている。最後に、第VII章では結論、政策的含意、本研究の限界、今後の課題が述べられている。

本論文の主たる目的は、(1)1990～2010年におけるタイの工業製品輸出実績を分析し、その比較優位パターンを吟味すること、(2)タイの製造業に対する FDI が工業製品貿易に与えた影響を研究すること、(3)タイの工業製品の貿易コストを推定し、貿易円滑化による工業製品輸出への影響を分析することである。

第1の目的のために、第IV章では6種類の RCA 指標を用いてタイの工業製品貿易の比較優位パターンを分析するとともに、タイの工業製品貿易における資本と労働の役割について研究している。

第2の目的のために、第V章では augmented gravity model を用いてタイの工業製品貿易に対する FDI の影響を3つの方向から分析している。第1はタイから投資国への工業製品輸出に対する影響であり、第2はタイから他の国への工業製品輸出に対する影響であり、第3はタイの工業製品輸入に対する影響である。

第3の目的のために、第VI章では Chen and Novy (2009) のモデルから貿易コストを推定し、さらに augmented gravity model を用いてタイの工業製品輸出に対する貿易円滑化などの効果を分析している。

主な分析結果を要約すれば、次の通りである。タイの工業製品輸出は労働集約的産業に集中していたが、近年、資本集約的産業の割合は上昇している。資本と労働の集約性に基づいて製造業を4つに分けると、2000年代において資本集約性の高い産業の比較優位は高まり、労働集約的産業のそれは低下している。純輸出に関する回帰分析の結果を見ると、1990年代にタイは労働集約的産業に比較優位を有していたが、21世紀に入ると多くの産業が比較優位を失っていることが確認できる。(第IV章)

タイから FDI 投資国への工業製品輸出に対する FDI の影響を見ると有意ではなく、FDI はタイの国内市場や第三国向けの生産を目的としたものが多いことが示唆される。実際、タイから FDI 投資国以外の国への工業製品輸出に対する FDI の影響も、タイの工業製品輸入に対する FDI の影響もプラスかつ有意であり、前者はタイが外国企業の「輸出基地」となっていること、後者は FDI が投資国からの工業製品（特に機械）輸入を増加させる傾向があることを示している。(第V章)

タイの工業製品貿易コストは、関税引下げや非関税障壁の低下によって持続的に低下

してきた。貿易コストを分解してみると、貿易相手国との距離は依然として最も大きな障害であるが、輸出入にかかる時間や書類の数といった貿易円滑化に関する要因も関税と同様に重要な貿易コストになっており、タイの工業製品輸出に大きな影響を及ぼしてきたことが分かる。(第VI章)

以上のような分析結果から幾つかの政策的含意が引き出されている。第1に、タイの労働集約的産業は労働コストの低い周辺国に投資を移すべきであり、第2に、当該産業は技術・経営・市場の革新を通して付加価値を高めるべきであり、第3に、タイ政府は以下のような政策を実施すべきである。すなわち、資本集約的産業への投資を促進するために貿易・投資円滑化や技能訓練等を実施し、輸出相手国を多様化するべく貿易交渉に注力し、インフラの整備・改善により物流コストを引き下げ、シングル・ウィンドウ・サービスや行政の透明性改善により貿易コストを引き下げることである。

審査結果の要旨

本論文は、タイの工業製品に注目して、その貿易パターンの変化とその要因を明らかにし、次に FDI によるタイの工業製品貿易に対する影響を分析した上で、貿易円滑化による工業製品輸出への効果を多角的に分析したものであり、タイの工業製品貿易と FDI に関して包括的に研究した優れた論文である。

本論文の主たる貢献は、以下の3点にまとめることができる。

第1は、タイの工業製品についてその比較優位パターンの長期的推移を実証的に明らかにしたことである。用いられている指標は6種類の RCA 指標であり、方法論としては特に新規性はないが、対象期間にはアジア金融危機やリーマンショックなどの重要な時期が含まれており、また以下の分析に必要な背景説明となっている。

第2は、タイの工業製品貿易に対する FDI の影響を多角的に分析している点であり、タイへの FDI が投資国およびその他の国との貿易に実際どのような影響を与えているかを実証的に明らかにしたことは、発展途上国における FDI と貿易との関係を理論的に考察する上で大きな貢献となっている。

第3の貢献は、観察可能なデータから貿易コストを推計し、タイが今後その工業製品輸出を拡大していくために必要な政策を提案している点にある。二国間の貿易コストを推計するためには通常、多くのデータが必要であるが、特に発展途上国では入手可能なデータが少ないため、従来その推計は不可能であった。ここで用いられた方法は多くの仮定に基づいた推計ではあるが、それを実際に用いてタイの工業製品輸出拡大に関する考察を可能にした貢献は大きい。

本論文に求められる改善すべき点と今後さらに分析を深化する方向として、次の2点が挙げられる。

1つは、第V章では工業部門全体の FDI について分析されており、部門別の分析がなされていないことであり、工業部門が性格の異なる多様な部門から成っていることを考えれば、データの利用可能性の制約があるとはいえ、これは大きな限界である。

いま1つは、第VI章の貿易コストに関する推計が恣意的に決められた代替の弾力性に依存しており、しかもその値が部門や年によって変化していないことである。これもデータの利用可能性の制約による限界ではあるが、貿易コストの推計が現実には重要なだけに何とか改善すべき点であろう。

しかし、これらの点は筆者自身も本論文において指摘し、今後の研究課題としている点であり、現時点での本論文の価値を損なうものではない。

以上を総合して、下記の審査委員は一致して、本論文の執筆者が博士（経済学）の学

位を授与されるに値すると判断する。

平成 26 年 3 月 5 日

審査委員
主査 教授 松永 宣明
教授 太田 博史
教授 駿河 輝和